ASEV Jpn. Rep., Vol. 4 ,No,1(1993)

長野県のブドウ栽培と生産技術の開発課題

長野県中信農業試験場 場長　藤森基弘

１．長野県のブドウは、2,200ha、2.2万t、生産額85億円で、リンゴに次いで第２位、県内農業生産額に占める比率は２％余である。品種は巨峰が70％前後の比率で、これの対全国シェアは25％弱、ハウス栽培率14％で、ともに全国第１位、10ａ当り生産額・所得額が高い。しかし一方で、生産費が高い、生産量が低い、などの問題がある。

２．今後は、優良系・ウィルスフリー巨峰と欧州系大粒種を中心に生産拡大し、密植早期多収技術の導入、施設化率の向上、省力･低コスト生産技術の確立、などにより、2,000年には2,500ha、３万t、生産額123.5億円の目標で振興を図っている。

３．生産技術の開発課題は、品種では外観・肉質・味・香りの良いファッション性豊かな新品種の育成（欧州系大粒種を中心に）、耐寒性・耐虫性新台木の育成、栽培技術では、立体仕立ての栽培技術、果面保護剤の開発と無袋化技術、ボックス栽培・ハウス栽培による超促成並びに周年栽培技術、植調剤・摘粒剤の利用技術、病害虫防除では、潜在ウィルスのウィルスフリー化技術、生物防除と発生予察による効率防除技術、無人防除技術（無人ＳＳ及び農薬静電気散布）などがあげられ、試験研究課題として順次取組まれている。

４．醸造用ブドウについては、中信農試において、地域に適した品種選定並びに栽培技術試験を継続しており、品種では過去にメルロー、シャルドネを、新たにカベルネなどを選定し、栽培技術については、改良マンソン仕立てによる樹体管理技術の改善をはかり、せん定方法、新梢の摘心時期と位置、芽かき後の新梢間隔の目安、着果基準の目安などを小粒種を対象に定めて、棚仕立てに比べ新梢管理・せん定作業が省力可能な普及技術とした。